

有害鳥獣の生態観察と捕獲手法の検討

九州森林管理局 森林技術・支援センター 森林技術専門官 岩下 正斉
主事 ○川畑 地歩
主事 山本 佑主

1 課題を取り上げた背景

有害鳥獣による食害対策として、くくり罠による捕獲に取り組んでいるところ。捕獲に当たっては、獣道を移動するシカ等を笠松式くくり罠で捕える方法を基本としてきたが、餌で誘因する手法について検討するとともに、くくり罠の改良を試みたので報告します。

2 取組の経過

- (1) 当センターでは、近年は4～10月にくくり罠(笠松式)による有害鳥獣捕獲を実施しています。
～過去4年(R2～5年度)の捕獲頭数：89頭(イノシシ、ニホンジカ)
- (2) 近畿中国森林管理局では、H28年度頃から、くくり罠と餌を組み合わせた小林式誘因捕獲を開発し、実績をあげていることから、当センターにおいても給餌による捕獲を実施しました。
- (3) 捕獲手法の改良に向けては、①動画撮影を併用しつつ、②笠松式罠の改良、③誘因罠の試行・実践に取り組みました。

3 実行結果

(1) 動画撮影による観察

- ・ 冬期の撮影(1～2月)では、米ぬかにイノシシ、タヌキ等が誘因された。
- ・ セット後、数日から1週間程で採餌始まり、時間経過により警戒心が低
- ・ 短い竹杭で囲う方法が効果的。柵状囲いは壊されやすい等の欠点。



(当初は杭の外側から採餌の内側に入って採餌)

(2) 笠松式くくり罠の改良

- ・ 通常の笠松式罠は、踏板を塩ビ管に落とし込む方式で、設置に当たり、塩ビ管の埋め穴を深く掘る等の必要があった。
- ・ 踏板を屈曲板とし、木枠の上で稼働させること等により、製作と設置が容易となった。また、踏込みに対する罠の反応が向上した。



(3) 誘因罠に係る検討

- ・ 小林式誘因捕獲(石でくくり罠を囲む方式)の外、餌の配置、誘導方法については様々な方式が可能
- ・ 米ぬかは、イノシシ、タヌキ等を誘因。芋、果実等も餌として有効
- ・ シカに対しては、ヘイキューブの外、嗜好植物(柑橘、野菜含む)等を使用



(石を使用＝小林式／ヘイキューブ)(竹杭を使用／米ぬか)(人工物の柵を使用／嗜好植物等)

4 考察

笠松式のくくり罠は、シンプルで堅牢な実用的な方式ですが、踏板について改良の余地があり、屈曲板はその一つとして有効です。また、誘因餌については、様々な手法について更に調査することが必要です。誘因罠の手法を成案できたので、今後実践的に使用して検証することとします。